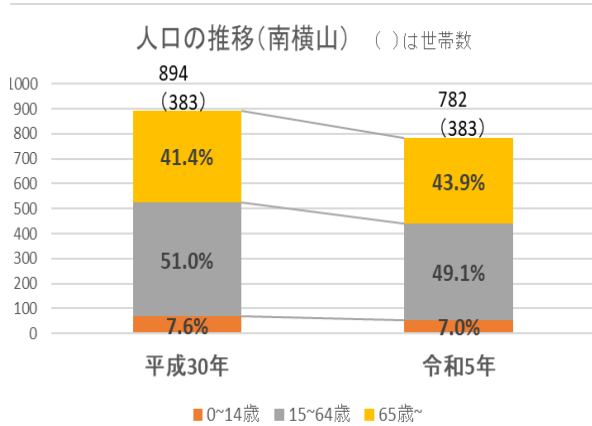


南 横 山 校 区

地域別人口



基礎データ

組織・人的資源	町会自治会数	3
	校区社協役員数	20
	校区社協ボランティア数	33
	民生委員・児童委員数	5
	老人クラブ会員数	197
	いきいきいずみ体操数	3
	おたがいさまサポーター数	2
	高齢者見守り協力事業所数	3
	子ども食堂(子どもの居場所)数	1
	自主防災組織の有無	無
対象者数	ふれあい訪問利用者数	0
	誕生月訪問利用者数	23
	避難行動要支援者登録数	8

ふくしアンケート結果ランキング(抜粋)

こんなまちだといいな	
1.買物が便利なまち	
2.住民同士のまとまりや助け合いが多いまち	
3.困りごとの相談窓口がわかりやすいまち	
こんな場所があったらいいな	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の経験や強みを生かせる場所	1.自由に使える友だちとのたまり場所
2.いつでも自由にボールなどで遊べる場所	2.思いっきり遊べる広い公園や広場
2.地域の誰もが参加できる地域食堂	2. 体育館やプール
2.放課後に保護者が帰宅するまで、安全に子どもが過ごせる居場所	3.雨の日でも遊べる場所
興味があるボランティア活動	
一般住民	子ども(小学5年生/中学2年生)
1.高齢者の地域での見守り訪問	1.自然や環境の保ご活動をする
	1.年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる
2.子どもの居場所づくり	2.赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする
	2.年下の子どもに勉強を教えたり話し相手になる
3.地域や世代を問わない誰もが食を通じて集える場づくり	2.自然や環境の保ご活動をする

地域での話し合い(ワークショップ)での意見

- ❖ 子どもも含めた顔の見える関係づくりが、地域防災・防犯力UPに繋がる。
- ❖ 自然豊かなまちの良さを子どもや若い人たちに継承することが大切。まちの魅力を知り、移り住む人が増えてほしい。
- ❖ 高齢者がそれぞれの強みを活かし、いきいきと過ごせる居場所づくりが大切。

子どもまんなか健康長寿のまち南横山

私たちの重点取り組み

重点取り組み①

【目 標】 防災・減災に向けて“助けてと言える・わかる”仕組みづくり

【具体的な取り組み】

- 基本的な防災・減災の学習会を開催する
- 連絡網の見直しと、いざという時に助け合える体制を整える
- 実践的な防災訓練を年に1回は実施する

重点取り組み②

【目 標】 高齢者がいつまでも安心して暮らせるまちづくり

【具体的な取り組み】

- 趣味や生きがいを見出せる居場所を作る
- 困りごとをつぶやける居場所を作る
- 世代を問わないスポーツなどを通じた交流の場を作る

重点取り組み③

【目 的】 子育て世代が住みやすいまちづくり

【具体的な取り組み】

- 「こんにちは！元気？」大人同士子どもを含めた地域全体でのあいさつ運動
- 地域の伝統・文化を発信・PRしていく
- 地域の中に放課後の子どもたちの居場所を作る



南横山校区社会福祉協議会

南横山校区の活動テーマ

子どもまなか健康長寿のまち南横山

重点取り組み①

防災・減災に向けて“助けてと言える・わかる”
仕組みづくり

南横山校区では、年に1回各町で防災訓練を行っており、令和6年度では大野町で防災学習会を開催し、身近な物を使った簡単な応急手当の方法などを地域住民の皆さんと共有しました。

大野町防災学習会



応急手当の様子



重点取り組み②

高齢者がいつまでも安心して暮らせるまちづくり

趣味や生きがいを見出せたり、困りごとをつぶやけるような居場所作りを目的に、サロンなどを定期的で開催し、スポーツを通じた交流の場として町会でスポーツ大会等も行いました。地域の住民同士のつながりがより深まりました。

いきいきサロン



重点取り組み③

子育て世代が住みやすいまちづくり

小学校廃校後はスクールバス通学となったため、子ども達への挨拶はあまりできなかったが、寺子屋「テテオニ」が地域内にあり、子ども達と地域住民の多世代交流につながっています。また、子どもの居場所について、自治会や民生委員・児童委員、老人クラブや消防団、PTA、テテオニ、子ども食堂で活躍されているスタッフの方などを交えて、話し合いと情報共有を行う協議の場を開催しました。

協議の場



令和7年度は…



令和7年度も令和6年度に引き続き、各町で防災訓練を行い、令和7年度は、防災の知識をまとめた防災リーフレットを全戸配布し、自助の啓発を行いました。また、子ども食堂も令和7年度の12月から立ち上がり、子ども達が安心して過ごせる居場所が出来ました。